



2020年度 第3四半期 決算説明会資料

JT Group CFO
見浪 直博

※本資料に含まれる数値は各事業の業績を分かりやすく説明するために使用しており、財務諸表の数値と異なる場合があります。
※用語の定義については、スライド18以降に記載しております。

将来に関する記述等についてのご注意

本資料には、当社又は当社グループの業績に関連して将来に関する記述を含んでおります。かかる将来に関する記述は、「考えています」「見込んでいます」「予想しています」「予想しています」「予見しています」「計画」「戦略」「可能性」等の語句や、将来の事業活動、業績、事象又は条件を表す同様の語句を含むことがあります。将来に関する記述は、現在入手できる情報に基づく経営者の判断、予測、期待、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もなく、当社としてその実現を約束する趣旨のものでもありません。また、かかる将来に関する記述は、さまざまなリスクや不確実性に晒されており、実際の業績は、将来に関する記述における見込みと大きく異なる場合があります。その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます（なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

- (1) 喫煙に関する健康上の懸念の増大
- (2) たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更（増税、たばこ製品の販売、国産葉たばこの買入れ義務、包装、ラベル、マーケティング及び使用に関する政府の規制等）、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
- (3) 国内外の訴訟の動向
- (4) 国内たばこ事業、海外たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
- (5) 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
- (6) 市場における他社との競争激化、お客様の嗜好・ニーズの変化及び需要の減少
- (7) 買収やビジネスの多角化に伴う影響
- (8) 国内外の経済状況
- (9) 為替変動及び原材料費の変動
- (10) 自然災害及び不測の事態等



2020年度 第3四半期実績

2020年度 第3四半期決算 全社実績

(億円)	2020年 1-9月	前年同期比
財務報告ベース		
売上収益	15,921	▲2.5%
調整後営業利益	4,415	▲2.2%
営業利益	3,902	▲11.4%
四半期利益	2,579	▲18.4%

注：イラン・スーダンにおいて、IAS29号に定められる要件に従い超インフレ会計を適用。
上記の第3四半期累計実績はこの影響を含みます

売上収益

- 国内たばこ・医薬・加工食品での減収が主因
- 海外たばこ事業についてはネガティブな為替影響を好調なモメンタムが上回り増収
- コロナ禍のトップライン影響は▲450億円程度

為替一定調整後営業利益：前年同期比 +6.3%

- たばこ事業・加工食品事業では引き続きコロナ禍影響を受けたものの、海外たばこ事業と医薬事業での増加が為替一定での利益成長を牽引

調整後営業利益

- ネガティブな為替影響が為替一定での堅調なパフォーマンスを相殺

営業利益・四半期利益

- (-) 2019年度に発生した医薬事業の一時金収入が剥落
- (-) 金融損益の悪化

国内たばこ事業：数量実績

2020年 1-9月	RMC	RRP
総需要*	▲4.9%	市場占有率 約25%
(たばこTotal)	1%強の減少	
JT販売数量*	540億本	30億本
(前年同期比)	▲5.9%	+6億本
SoS**	60.0%	約10%***
(前年同期比)	▲0.7ppt	前年同期 約9%***

* 国内市場のみを対象 **Share of Segment, カテゴリー内シェアを指す *** 実需ベース

総需要

- たばこ総需要：コロナ禍・規制・19年10月定価改定影響、趨勢減影響を20年10月定価改定前の駆け込み需要が一部相殺
 - ✓ コロナ禍による需要影響は継続しているが、4-6月期に比べれば緩和
 - ✓ RRP市場の拡大は想定をやや上回る
 - ✓ RMCも合わせた市場全体は底堅く推移

JT販売数量／シェア

- RMC：低価格帯の競争継続により1-9月は前年同期比でシェア減
 - ✓ 7-9月シェアでは、前年同期を上回る
- RRP：前年同期比増加継続、年初見通しに対してインライン
 - ✓ 7-9月実績ではカテゴリー内実需ベースシェア約11%
 - Ploom S 2.0：7月の発売以降順調な滑り出し
 - ✓ RRP市場の拡大も数量増に寄与

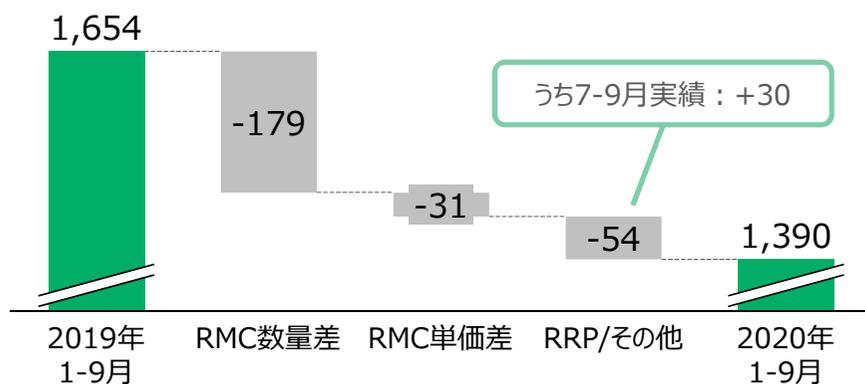
参考：10月定価改定前の駆け込み需要について

- 定価改定前の駆け込み需要はおよそ0.4か月分と分析
- 駆け込み需要の反動は年内には解消見通し

国内たばこ事業：財務実績

財務実績 (億円)	2020年 1-9月	前年同期比
自社たばこ製品売上収益	3,948	▲9.4%
調整後営業利益	1,390	▲16.0%

調整後営業利益ロードマップ (億円)



トップラインパフォーマンス

- (-) RMC数量減少影響
- (-) ネガティブなRMC単価差影響
 - 19年10月の一部銘柄価格据え置き
- (-) RRP関連売上収益の減少
 - デバイス・アクセサリ販売減
 - 19年10月の価格据え置きによる影響
- (-) コロナ禍のトップライン影響は▲200億円程度
 - うち半分強が国内免税・中国事業で発現
 - 国内市場での影響は継続しているものの、4-6月期と比べ緩和

調整後営業利益 増減要因

- (-) トップラインの減少
- (-) RRPを中心とした投資の強化
- (+) コロナ禍の長期化を背景とした間接コストの大幅減
- (+) 優先順位に基づく効率的な経費執行

海外たばこ事業：数量実績

数量実績 (億本)	2020年 1-9月	前年同期比
総販売数量	3,300	▲2.6%
GFB販売数量	2,132	+1.4%

海外たばこ全体での底堅い数量実績

- (+) 欧州を中心に着実なシェア成長
- (+) UK、フランスや台湾等の高単価市場で、渡航制限に起因した国内需要の増加に伴う数量パフォーマンス押し上げが継続
- (-) ロシア・バングラデシュでの総需要及びシェアの減少
- (-) コロナ禍影響を受けた免税及び新興国市場で販売数量が減少

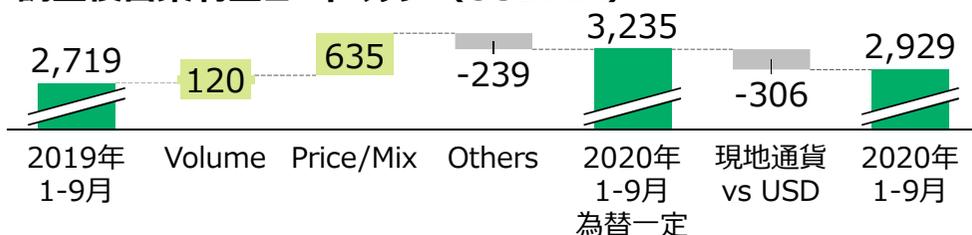
Topics: ロシア市場について

- 経済停滞・RRPの伸長などを背景に、RMC総需要の減少率は引き続き高い水準
- 価格競争力強化に向け機動的なポートフォリオの見直しを実施
- Ploom model Sについては、主要キーアカウントを通じて主要都市へ販路を拡大
- 財政逼迫を背景とした想定を上回る2021年の増税が決定

海外たばこ事業：財務実績

財務実績	2020年 1-9月	前年同期比
自社たばこ製品売上収益	9,565 億円	+1.6%
為替一定ベース	9,370 USDMM	+8.5%
調整後営業利益	3,148 億円	+6.2%
為替一定ベース	3,235 USDMM	+19.0%

調整後営業利益ロードマップ^o (USDMM)



注：超インフレ会計の適用に伴い、上記の表・グラフに記載の2020年1-9月実績は超インフレ会計の影響を含みます。ただし、為替一定ベースと明記されている数値については超インフレ会計影響が含まれておりません。

また、ロードマップ上の為替一定と実績の差▲306USDMMには、従来の為替影響に加え、超インフレ会計適用に伴う影響が含まれております。

© Copyright JT 2020

トップラインパフォーマンス

- ロシア、UK、フィリピン等における単価上昇効果
- 主要市場でのシェアの継続的な伸長とコロナ禍に起因した数量パフォーマンス押し上げによる数量増
- トップラインへのコロナ禍影響は▲170億円程度

調整後営業利益 増減要因

- (+) 堅調なトップライン成長
- (+) コロナ禍に伴う販促費・間接コストの減少
- (-) GBS* 立ち上げ費用やRRP投資の強化
- (-) IRR、RUB、TRY等の下落によるネガティブな為替影響

*Global Business Service Center (GBS)：2019年第3四半期に公表したトランスフォーメーション施策の一環で立ち上げたグローバル全体のシェアードサービス機能を担う拠点

医薬事業・加工食品事業：財務実績

医薬事業

(億円)	2020年 1-9月	前年同期比
売上収益	575	▲58
調整後営業利益	126	+48

- 売上収益：海外ロイヤリティ収入の減少を主因に減収
- 調整後営業利益：臨床試験終了による研究開発費の減少及び鳥居薬品での増益により増益

開発品アップデート

- 9月：腎性貧血治療薬「エナロイ®錠2mg,4mg」について、日本国内における製造販売承認を取得

加工食品事業

(億円)	2020年 1-9月	前年同期比
売上収益	1,086	▲62
調整後営業利益	9	▲20

- コロナ禍を背景としたネガティブな要因がポジティブな要因を上回り、減収減益
 - 以下の業態での需要減による売上減少
 - ✓ 冷食常温・調味料事業の外食向け製品
 - ✓ ベーカリー事業
 - ✓ トрендとしては6月以降回復傾向が見られているが、7-9月においてもコロナ禍前の水準には届かず
 - 冷食常温事業の家庭用製品については需要増により売上が伸長
 - ✓ 外出自粛要請・緊急事態宣言明けも、引き続き堅調な推移
- コロナ禍によるトップライン影響は1-9月で▲70億円程度

JT

2020年度 修正見込

2020年度全社業績：修正見込

為替一定調整後営業利益の成長率及び当期利益は年度当初の見込を上回る見通し

(億円)	2020年 今回見込	対前回 見込増減	前年度比
財務報告ベース			
売上収益	20,700	+600	▲4.9%
調整後営業利益	4,830	+260	▲6.4%
営業利益	4,640	+420	▲7.6%
当期利益	3,100	+240	▲11.0%
FCF	4,150	+650	+108億円

注：イラン・スーダンにおいて、IAS29号に定められる要件に従い超インフレ会計を適用。
上記の修正見込はこの影響を含みます

売上収益：以下を主因に上方修正

- 海外たばこ事業：コロナ禍が長期化している中、トップラインが前回見込よりも底堅く推移
- 医薬事業：海外ロイヤリティ収入の増加を織り込み

為替一定調整後営業利益：前年度比+4.5%へ上方修正

- 国内・海外たばこ事業、医薬事業の見込修正を反映
 - 国内たばこ事業：コロナ禍長期化による一部の間接コストの大幅な減少や優先順位に基づく効率的な経費執行を背景としたコスト減

営業利益・当期利益

(+) 不動産売却益の上振れ

- ✓ JTビル売却：契約締結済み、第4四半期にPL計上予定

(-) 為替前提の見直しはあるものの、影響額は限定的

FCF

- 営業利益の上方修正、運転資本の改善等を織り込み

国内たばこ事業：数量前提*の見直し

*国内市場のみを対象

• たばこ総需要：「4%台半ばの減少」に上方修正

• RMC総需要：「8%台前半の減少」に上方修正

• RRP市場占有率：「20%台半ば」から修正なし

- ✓ 第3四半期実績での規制・コロナ禍影響や10月定価改定影響の見直しを踏まえ、上記の通り修正
- ✓ 特にコロナ禍影響については、前回の見通しに対し底堅く推移
- ✓ RRP市場占有率ガイダンスは前回見込と同様だが、このガイダンスの範囲でやや拡大傾向を確認

• RMC販売数量：「約9%の減少」に下方修正

- ✓ 各社の新商品投入が活発化するなど、低価格帯における競争が激化傾向
 - 当社も、LCのラインナップ拡充に加え、MEVIUSでより安価なスリムラインを発売、MEVIUS等からダウントレードするお客様を捕捉するべく、取り組みを強化
- ✓ この激化傾向を踏まえ、前提を見直し

• RRP販売数量：「30億本台後半」から修正なし

- ✓ 前回見込と同様のガイダンスだが、以下の理由によりこの範囲内で若干の数量増を織り込む
 - Ploom S 2.0の販売動向
 - RRP市場の拡大

参考：Ploom Sの 카테고리内シェア**推移

**実需ベースの7日移動平均シェア



国内たばこ事業：財務修正見込

(億円)	2020年 今回見込	対前回 見込増減	前年度比
自社たばこ製品売上収益	5,100	—	▲10.4%
調整後営業利益	1,660	+60	▲11.3%

• 自社たばこ製品売上収益：前回見込から修正なし

- ・ コロナ禍長期化により継続している国内免税・中国事業での減少影響、RMC数量見通し引き下げによる影響をRRPでの数量増等が相殺

• 調整後営業利益：60億円上方修正

- ・ 免税ビジネス：コロナ禍影響からの回復に前回見通しよりも時間を要す見通し
- ・ このネガティブ影響はあるものの、コロナ禍長期化による間接コストの大幅な減少や優先順位に基づく効率的な経費執行を背景に、ボトムラインについては上方修正

海外たばこ事業：数量前提見直し及び財務修正見込

	2020年 今回見込		対前回 見込増減	前年度比
自社たばこ製品売上収益	12,300	億円	+600	▲1.8%
為替一定ベース	12,100	USDMM	+500	+5.3%
調整後営業利益	3,380	億円	+150	▲0.8%
為替一定ベース	3,610	USDMM	+170	+15.5%

注：超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の見込は超インフレ会計の影響を含みます。ただし、為替一定ベースと明記されている数値については超インフレ会計影響が含まれておりません。

• 数量前提の見直し: 堅調な数量実績を受け上方修正

- ・ 総販売数量：「約4%の減少」に上方修正
- ・ GFB販売数量：「約1%の増加」に上方修正
- ・ 第3四半期までの複数市場における堅調な数量増・シェアモメンタムに加え、一部市場で強く推移している総需要の動向

• 為替一定自社たばこ製品売上収益：500USDMM 上方修正

- ・ 数量前提の引き上げを主因に上方修正

• 為替一定調整後営業利益：「前年度比15.5%成長」に上方修正

- ・ トップラインの引き上げを主因に上方修正
- ・ 超インフレ環境下にある市場の貢献分を除いた場合でも二桁成長

• 調整後営業利益：150億円上方修正

- ・ ネガティブな為替影響は引き続き見込まれるものの、為替一定での堅調なパフォーマンスを背景に上方修正

医薬事業・加工食品事業

医薬事業

(億円)	2020年 今回見込	対前回 見込増減	前年度比
売上収益	780	+20	▲105
調整後営業利益	160	+30	+1

- 売上収益は前回見込を上回る海外ロイヤリティ収入の推移を織り込んだことにより上方修正
- 調整後営業利益については、トップラインの上振れに加え、コロナ禍でのオペレーション制限を背景とした経費減により上方修正

加工食品事業

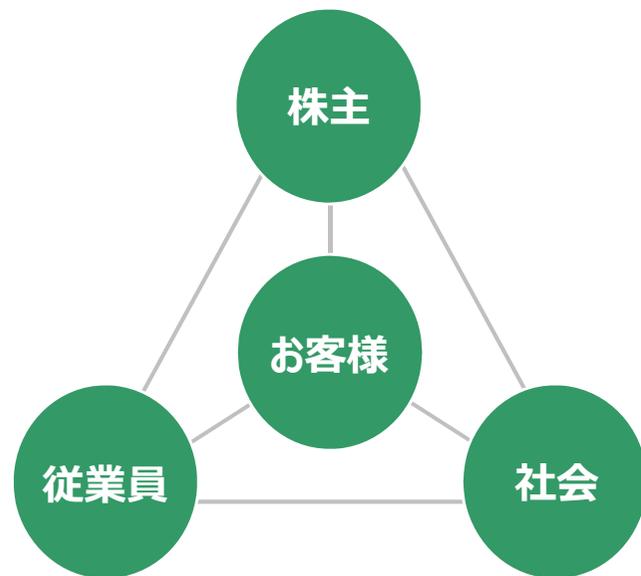
(億円)	2020年 今回見込	対前回 見込増減	前年度比
売上収益	1,510	▲20	▲76
調整後営業利益	30	—	▲24

- 売上収益は、コロナ禍により影響を受けた冷食常温事業における外食向け製品の一部が、前回見込の水準から回復が遅れていることを背景に、20億円下方修正
- 調整後営業利益については、トップラインの下方修正はあるものの、期中を通じて実施しているコスト低減の取り組み等により、前回見込の達成を目指す

JT

終わりに

Closing remarks



- 通期業績見込の達成に自信
- 一方、今後策定する来期以降の計画について以下のリスクを見極める必要あり
 - ✓ 財源確保を目的とした各国における増税議論の進展
 - ✓ 免税ビジネスの回復の遅れ
 - ✓ Brexit・イランにおける経済制裁等の各市場固有のリスク
 - ✓ コロナ禍がお客様の購買力や消費行動に与える影響
- 事業投資を最優先する方針に変更はなく、来期以降の経営資源配分については、今後の利益見通しを勘案した上で検討
 - ✓ 2021年は、次世代品の投入をはじめ、RRPへの投資を強化
 - ✓ 事業環境や為替変動の不確実性が依然として高い状況、当期利益への影響を注視する必要あり

<用語の定義>

調整後営業利益（AOP）：	調整後営業利益 = 営業利益 + 買収に伴い生じた無形資産に係る償却費 + 調整項目（収益及び費用）* *調整項目（収益及び費用）= のれんの減損損失 ± リストラチャリング収益及び費用等
為替一定調整後営業利益：	海外たばこ事業における当期の調整後営業利益を前年同期の現地通貨対ドル、円対ドルの為替レートをを用いて換算/算出することにより、為替影響を除いた指標
当期利益/四半期利益：	親会社の所有者に帰属する当期利益/四半期利益
Reduced-Risk Products（RRP）：	喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品
GFB： （Global Flagship Brands）	Winston、Camel、MEVIUS、LDの4ブランド
総販売数量： （海外たばこ事業）	水たばこ/E-Vapor/製造受託を除き、Fine Cut/Cigar/Pipe/Snus/Kretek/加熱式たばこを含む
自社たばこ製品売上収益： （海外たばこ事業）	物流事業、製造受託等を除き、水たばこ、RRPの売上込み
為替一定ドルベース 自社たばこ製品売上収益/ 調整後営業利益： （海外たばこ事業）	当期の自社たばこ製品売上収益/調整後営業利益を前年同期の現地通貨対ドルの為替レートをを用いて換算/算出することにより、為替影響を除いた指標

<用語の定義>

たばこ総需要： (国内たばこ事業)	日本市場全体におけるたばこ製品の本数ベースの市場規模（自社推計） RRPやリトルシガーを含む
RMC： (国内たばこ事業)	Ready made cigarettesの略
RMC総需要： (国内たばこ事業)	日本市場全体における紙巻たばこの本数ベースの市場規模（自社推計） リトルシガーを含み、RRPを含まない
RMC販売数量： (国内たばこ事業)	国内免税販売中国事業の販売分を除く、JT紙巻たばこの販売本数 リトルシガーを含み、RRP等を含まない
RRP販売数量： (国内たばこ事業)	国内免税販売分を除く、JTのRRPの販売本数（1パック当たり紙巻たばこ20本として換算） デバイス/関連アクセサリ等は含まない
リトルシガー： (国内たばこ事業)	たばこ葉を原料とする巻紙を使い、紙巻たばこと同様の形態に巻き上げた製品。 たばこ事業法上「葉巻たばこ」に分類される
自社たばこ製品売上収益： (国内たばこ事業)	輸入たばこ配送手数料収益等を除き、国内免税販売/中国事業/RRP関連の売上を含む